

「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク（ARRN）の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。

目次

	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ	1
➤ 会員寄稿記事	3
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ	8
➤ 会議・イベント案内	9
➤ 書籍等の紹介	9
➤ 会員募集中	10

JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

『桜のある水辺風景 2014』写真募集中(5/31㍻切)

今年の桜の開花は昨年と比べると遅く、例年並みだったとのことです。年度が明けてからゆっくりとお花見を楽しまれた方も多いのではないのでしょうか。

JRRN 事務局では、2014 年に撮影された「桜のある水辺写真」を募集中です（5/31㍻切）。JRRN 非会員の方からの応募も歓迎していますので、まだ桜が咲いている地域の皆様、川仲間をお誘い頂き、身近な水辺や

旅行などで訪れた水辺の桜の写真を、その写真に寄せる皆様の思いや桜の物語とともに、是非お送り下さい。

全国の春の水辺で切り取られた皆様の大切な一枚、お待ちしております。

(JRRN 事務局・後藤勝洋)

○テーマ： 「桜のある水辺風景 2014」 ※2014 年に撮影された写真に限定させていただきます

○応募資格： どなたでもご応募いただけます（JRRN 会員・非会員）

○作品規定：

- ・応募はお一人 10 点まで可能です。
- ・写真サイズはハガキサイズ程度の印刷でも鮮明なレベルとし、デジタル画像サイズは 3 MB 以内とします。
- ・個人が特定できる画像が含まれる場合は被写体の方の了承を得て下さい。

○応募方法： 別紙※の「応募シート」に、題名、撮影場所、撮影年月、氏名、住所、電話、Email、写真利用時の個人情報開示条件、作品への思い等をご記入の上、写真と共に以下応募先へ送付下さい。（デジタル画像の場合は応募シートと共に電子メールにて、オリジナル写真の場合は応募シートを同封し郵送願います）

※別紙応募シート：<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/docs/Photo2014form.doc>

○応募㍻切： 2014 年 5 月 31 日（土）

○応募作品の取扱いについて：

- ・桜のある水辺風景写真集や JRRN ニュースレター等でご紹介させていただきます。
- ・優秀作品を JRRN 会員により選定し JRRN ホームページ上でご紹介させていただきます。
- ・応募内容が本企画主旨に沿わないと判断した場合は、紹介を控えさせていただくことがあります。
- ・（事前連絡の上）JRRN 刊行物やウェブサイト等で使用させていただきます。
- ・応募作品は返却致しませんのでご了承ください。

○応募先： 〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号 新川中央ビル 7 階
公益財団法人リバーフロント研究所内 JRRN 事務局（Email: info@a-rr.net）

○問合せ： JRRN 事務局 担当： 後藤・和田（E-mail: info@a-rr.net Tel: 03-6228-3862）

「河川モニタリング活動事例集～できることから始めよう 市民による河川環境の評価～」 無料配布中

市民が主体的に取り組む河川環境のモニタリング活動の実態を調べ、各地のモニタリング活動事例や市民による河川モニタリング活動の更なる活性化に向けたヒントなどをとりまとめた「河川モニタリング活動事例集」の印刷製本版を無料配布中です。

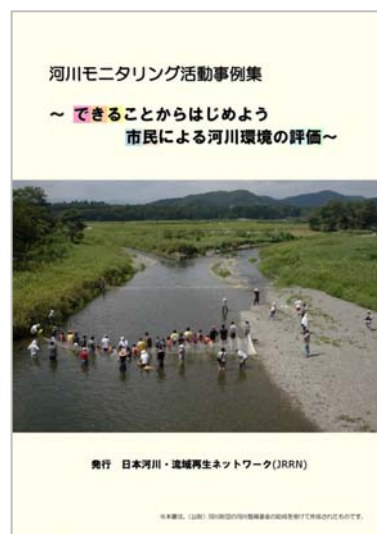
本事例集が、全国の知恵や教訓を共有することの一助となり、各地の河川環境モニタリング活動の更なる活性化に寄与することを願っております。

なお、本事例集は、(公財) 河川財団の平成 25 年度河川整備基金の助成を受けて作成されたものです。

※本冊子（印刷製本版）の入手方法：

本冊子をご希望の方は、送付先の住所・氏名を JRRN 事務局（担当：後藤）までご連絡ください。JRRN 会員（個人・団体）限定サービスとさせて頂き、送料のみご負担（着払い送付）頂いた上で、1 冊を無料でご提供致します。

Email: info@a-rr.net / 電話：03-6228-3862



→事例集ダウンロード (PDF 7.9MB)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/info/425.html>

- 冊子名：河川モニタリング活動事例集～できることから始めようー市民による河川環境の評価～
- 発行：日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)
- 監修：白川直樹 筑波大学准教授 (JRRN 理事)
- 編集：JRRN 事務局、筑波大学白川 (直) 研究室
- 発行年月日：2014 年 3 月 25 日

(JRRN 事務局・和田彰)

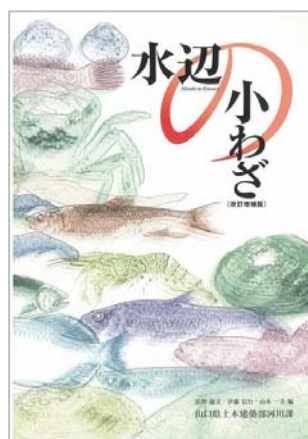
「できることから始めよう～川で取組む『小さな自然再生』(仮称) 事例集制作に向けて

全国の河川において多自然川づくりが進められていますが、川幅の制約等の立地条件からその適用が難しい河川も少なくありません。こうした中、簡易的な魚道や間伐材を用いた水制など、地域住民が河川管理者と連携し日曜大工的に取組める「小さな自然再生」がここ数年注目されています。

JRRN では、平成 26 年度河川整備基金助成事業として、全国でこれまで実施されてきた「小さな自然再生」に関わる事例集を、この分野の有識者の協力を得て制作し、その成果を全国に普及する取り組みを今年度を実施することとなりました。

会員皆様が実施されている小さな自然再生の具体事例や、事例集制作にボランティアとしてご協力頂ける方々を今後募集していく予定ですので、JRRN ホームページ等で改めてご案内させていただきます。

こうした取り組みを通じ、身近な川の自然再生活動への市民参加が更に促進され、地域と河川管理者の連携推進につながれば幸いです。



「水辺の小わざ」

山口県土木建築部河川課発行

2013 年 10 月 (改訂版)



「ローテク&エコテク風土記」

リバーフロント整備センター発行

2010 年 3 月

「小さな自然再生」に関わる参考文献の一例

(JRRN 事務局・和田彰)



川系男子の『川と人』めぐり No. 23～久慈川～

坂本貴啓（筑波大学大学院 システム情報工学研究科 博士後期課程 白川直樹研究室『川と人』ゼミ）

『川と人』
めぐり

研究室のゼミ名『川と人』ゼミという言葉をもじって、『川と人』めぐりのタイトルで連載していきます。テーマは川と人。川が好きではない『川系男子』が川めぐりをしながら、川への思いや写真・動画などをご紹介します。

♪夏も近づくハ十八夜 野にも山にも若葉が茂る

あれに見えるは茶摘みじゃないか あかねだすきに菅の笠^{すげ}

（唱歌『茶摘み』 作詞：不詳，作曲：不詳）

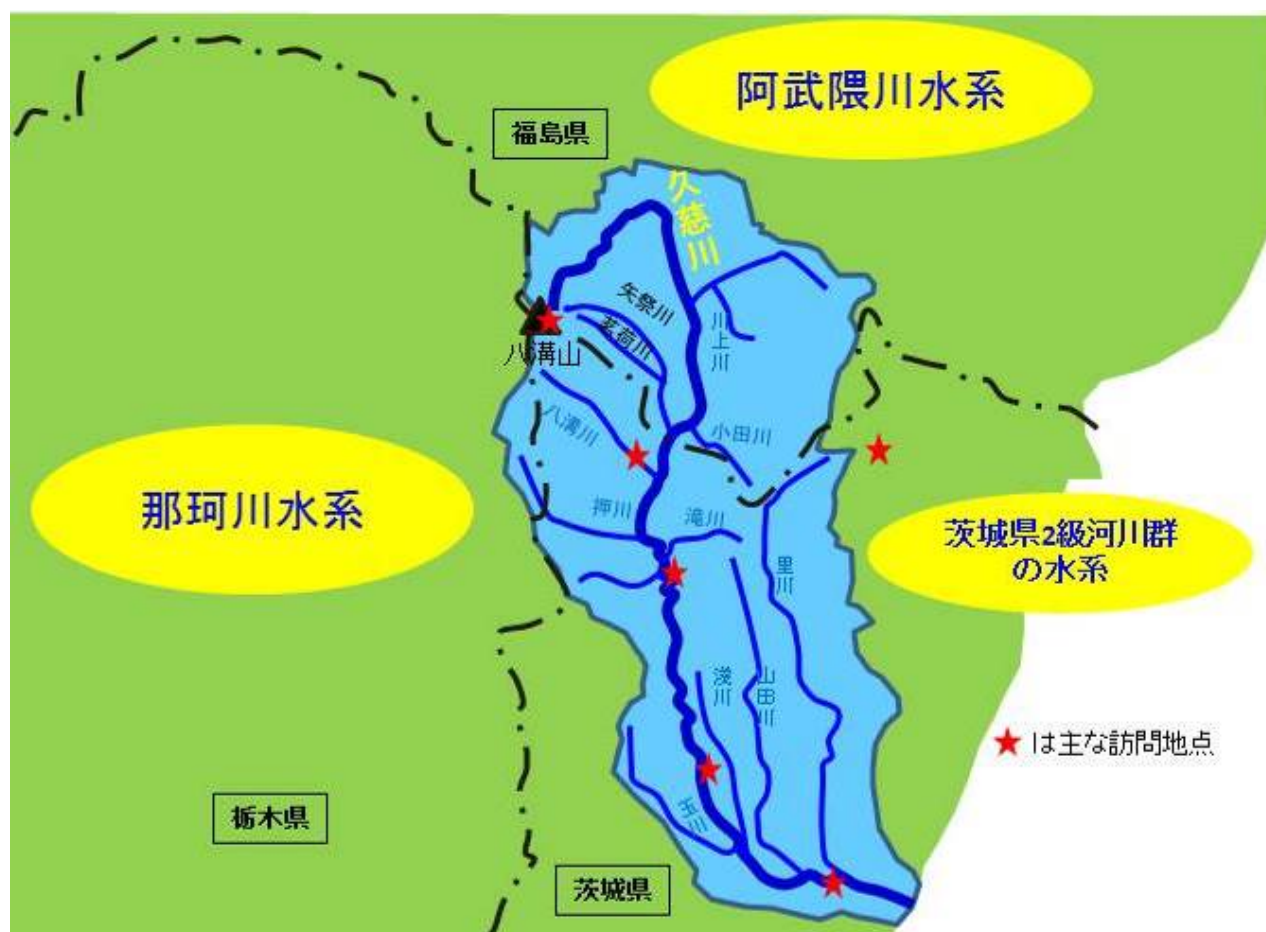


図1 久慈川流域図（常陸河川国道事務所管内図を一部トレースし，筆者加筆）

1. 西の四万十，東の久慈

2014年4月26日（土），ゼミのフィールドトリップで久慈川に行った。『西の四万十，東の久慈』と対にして例えられるほどアユの釣り人らの間では清流として知られている。

久慈川は八溝山（1,022m）を水源とし，福島県南部から茨城県北部にかけて流れ，日立港付近で太平洋に注ぐ一級河川である。流域面積 1,490 km²，流路

延長 124 kmの河川で，主な支流は本川に平行して流れているものが多く，細長い流域の形をしている。川の名前の由来は奈良時代に編纂された『常陸国風土記』に「古老のいへらく，郡より南近くに小さき丘あり。かたち，くぼりに似たり。倭武の天皇，よりて久慈と名付けたまひき」と記されていることに由来しているとされている（参考：常陸河川国道事務所 WEB サイト）。天候にも恵まれ，12名で春の久慈川を周った。



図2 現存する四堰と魚道



図3 里川（左）と久慈川（右）の背割堤

2. 江戸時代に既に魚道の概念！？^{しげき}四堰

最初の目的地は里川と久慈川の合流点付近。里川が合流する直前の久慈川に四堰と呼ばれる床固め堰がある（図2）。宮村（2013）^{※1}によると、この堰は江戸時代にできた堰で、江戸時代から魚道のついた堰であったという。江戸時代に『魚道』という概念があつて、魚に配慮した構造物があつたということになり驚きである。これは私の仮説だが、久慈川は当初よりアユ漁が有名で名産として名高かった。そのため、流域の人々はアユの遡上に関心が大きかった。そのため、農業のための水は確保するため堰をつくっても魚に影響の少ない堰の設計にしたのではなかろうか。今でこそ珍しくない河川環境への配慮した土木構造物だが、当時から人々は川の恵みを多く享受するために自然に対する配慮をよく行っていたということになる。先人達の久慈川の生き物に対する視点は現在にも通ずる思慮深いものである。

堰の魚道周辺にはコサギやカワウが数多く集まっていた。集まっているということは魚が取りやすいということだから、魚道がよく機能しているということであろう。

※1・・・宮村忠 2013, 川を巡る-「河川塾」講演録-, 日韓建設通信新聞社。

3. 久慈川と里川の合流点

久慈川と里川は合流点付近では数kmに渡り、川が平行して流れている。おそらく昔の河道はそうではなかったであろうが、現在は背割堤（図3）となっている。背割堤は洪水が発生した際に両方の河川を安全に合流する役割を果たしており、木曽川と長良川、宇治川と木津川の背割堤などがよく知られている。久慈川と里川の背割堤は車一台ほどが通れるくらいの幅で決して大きくはないが、立派に役割を果たしている。背割堤からは川を挟んで向こう側の堤内地の家々や田植えのために水を張った田んぼが見渡せる。今年生まれた男の子が生まれたと思われる家には命名の旗とともに、鯉のぼりが堂々と晴れ空を泳いでいる。堤防には枯草の中からまだ薄い緑色がところどころに芽吹いている。背割堤からは春の風景



図4 現在の辰ノ口堰

を凝縮して眺めることができる。最近では洪水対応のため、どうしても高さをあげる築堤を行わなければならないところが増えてきていて、川と堤内地の風景は分断されがちだが、久慈川の堤の高さはそれほど高くは感じない。これは川幅にゆとりがあるなど築堤に治水対策の大半を依存していないから見る事ができる風景なのかもしれない。土手風景の中にこそ、日本の美しい川風景はある。

4. 辰ノ口堰と永田円水親子

里川の合流点から少し遡り、辰ノ口堰（図4）に到着。この堰は江戸時代に甲斐の国（山梨県）の永田円水親子によって建設された堰である。甲斐の国から寛永十七年に父、茂右エ門とともに常陸の国（茨城県）に移住し、鉱石採を行っていた。円水親子は鉱山技術とともに土木技術にも優れた腕を持っていた。それを見込んだ水戸藩初代藩主の徳川頼房は親子に治水利水事業に当たらせることにした。円水が最初に手掛けたのが辰ノ口の堰であった。工事は難航しながらも正保六年に完成。しかし、いざ水を流してみると河水が地中にしみこんで途中で止まってしまう。そのため円水親子は牢へ入れられてしまう。しかし



図5 久慈川沿いで昼食

円水は獄中にいてもどうして水が流れないのかそればかり考えていた。ある時ついに失敗の原因に気づいた彼は獄中より工事改善の方法を藩庁へ差出し、完成した(常陸大宮市観光協会1981, 現地看板より)。

獄中でも工事の失敗原因ばかり考えるとさすが土木技術者魂である。おそらくこの辺りの地形は扇状地形の扇央部に当たるため、もともと水が伏流しやすい地域であったため、堰にうまく水が湛水しなかったのであろう。

現在の辰ノ口江堰は可動堰となっており、茨城県が管理している。今も農業用水堰として利用され、周囲の1,130haを灌漑している。

5. 久慈川の河原で

正午を過ぎ、お腹がすいてきたところで昼食。フィールドトリップではみんなで川を見ながら昼食を食べることが多い。今回も久慈川の中流域の河原に座り、昼食をとる。食べ終わった者は好みの小石を見つけては水切りをしたり、河原に石を積んだりして遊んでいる。

ゼミの新生も普段川の側で昼食を食べるなんてことは中々無いようで、新鮮に感じたことだろう。大学院から入学してきた一人は異分野から河川の研究室に飛び込んできたが、4月中慣れることに精いっぱい緊張の糸が張り詰めていたそうだが、川の側で長閑にご飯を食べる研究室のメンバーを見て少し緊張が解けたと言っていた。『同じ釜の飯を食った仲間』という言葉ならぬ、『同じ川で飯を食った仲間』というところだろう。今回新生は12名中4名が参加していたが、彼らの記憶の中にゼミで訪れた最初の川として久慈川の春の風景が刻まれていくのだろう。私も今まで様々な川を様々な人と巡ってきたが、今日の川めぐりも大事な記憶として川の風景と巡った人とのやりとりの中で刻まれていくと思う。

どんな新歓飲み会よりも河原でみんなとおにぎりを食べるほうが強い仲間意識が醸成されるだろう。

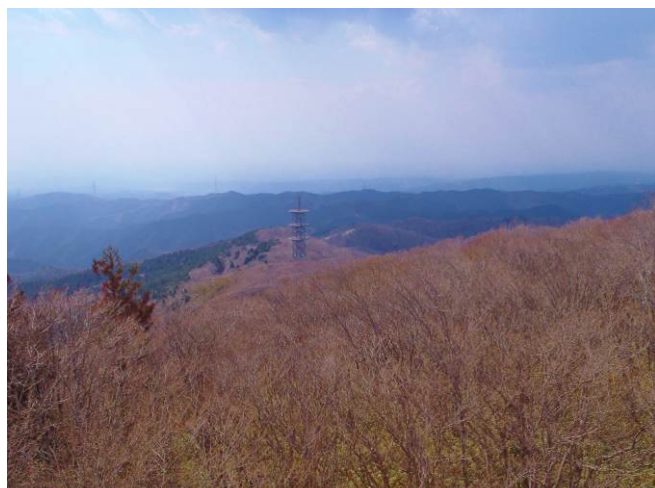


図6 八溝山山頂と尾根線沿いの分水嶺

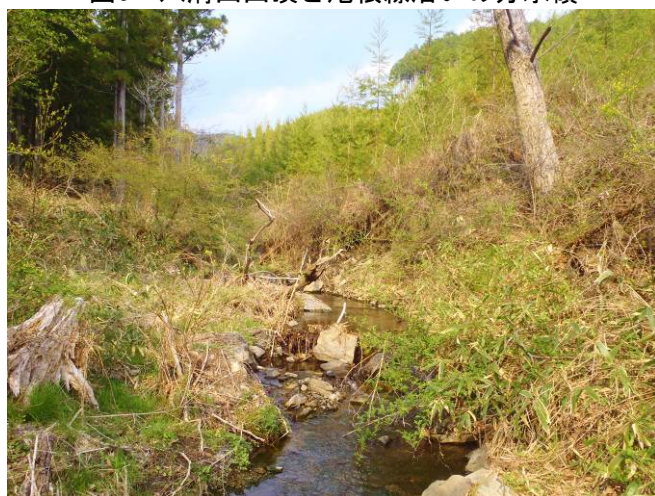


図7 八溝山麓の川

6. 久慈川の源流八溝山

さらに久慈川を上流へと遡る。久慈川の途中から支流の八溝川の方へ入っていく。どんどん勾配が急になってきて、山道になってきた。このあたりは春が遅いのか、まだ桃や梅、桜が咲いており、山郷は色鮮やかに色づいている。八溝山嶺神社の鳥居をくぐり、林道を車で登って行く。ヘアピンカーブを繰り返しながら、一気に標高が上がっていき、直下を覗き込むと運転手にドライブの命運を祈りたくなるぞっとする光景。順調に山頂に到着し、散策。八溝山は標高1,022mの山で茨城県の最高峰である。県別最高峰の標高は千葉県に次ぎ2番目に低い。那珂川流域(西側)と久慈川流域(東側)の分水嶺(流域界)にもなっており、尾根線でそれをはっきりと確認できる(図6)。また福島県(北側)と茨城県(南側)の県境にもなっている。久慈川本川は山の北側から流れ、一旦福島側へ北流し、途中から南流する(図1)。方や八溝川は南斜面から流れ始め、そのまま南流して流れるため、同じ水源にもつ両河川でも久慈川のほうが回り込んで八溝山を水源に持つ分、流路が長くこちらが流域の本川として採用されたのだろう。

山を下り、山の麓の源流域の小さな川でしばし散策。水はまだ冷たいが、周囲には野花が咲き、山のふもとにも春が広がっていた(図7)。



図8 大子町の川風景

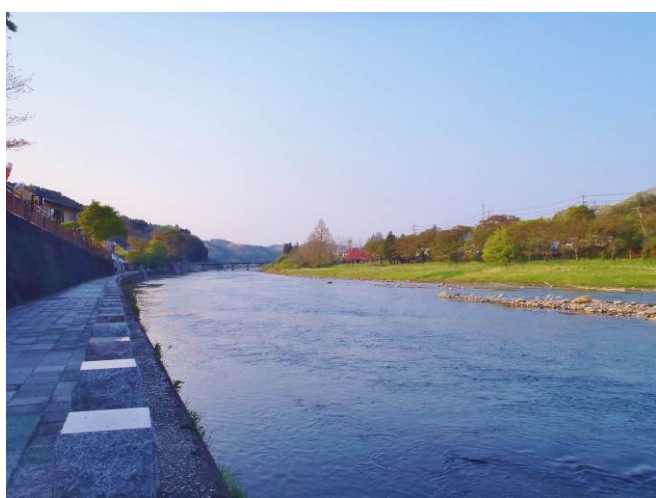


図9 久慈川自然遊歩道と久慈川

7. 大子町の川風景

八溝山を下り、再び久慈川へ。久慈川を下り、大子町付近へ。大子町は奥久慈地域の中心で、人口2万人弱である。町の周囲は山に囲まれ、中心には久慈川が流れており、自然の中に集落が形成されていて、穏やかな川風景を楽しむことができる。

今まで色んな川風景を見てきたが、町の中心部を流れる川として、こんなに美しいところは見たことが無い(図8, 図9)。しいて言えば京都の鴨川に川風景は似ているかもしれない。川、河川敷、住宅、山が重層的に重なり合っていて、開放感がある空間になっている。川沿いには久慈川自然遊歩道と呼ばれる歩道があり、散歩しても気持ちがよく、川に足をつけて遊ぶことができる。まちの中を流れる川としても川幅が大きすぎず、かつ小さすぎず、町の中心部に動脈のように流れるこの川がまちをさらに美しく魅せている。

ここに訪れたのは夕暮れ時であったこともあり、川面はより美しくみえた。川沿いの八重桜も満開で季節の彩りを感じられる時期に来ることができ、大変満足であった。日常的に久慈川を身近に感じながら通学できる大子町の子供達がとてもうらやましい。



図10 袋田の滝(2013年10月)紅葉前

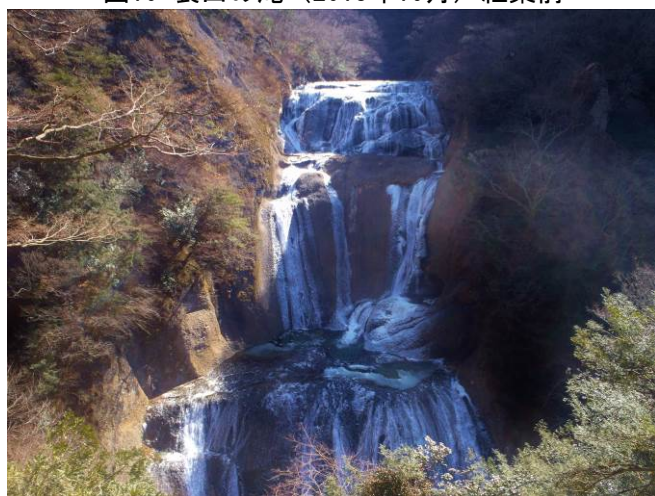


図11 袋田の滝(2011年2月)氷瀑

8. 袋田の滝(参考)

今回、時間の関係で訪問しなかったが、久慈川といえば袋田の滝を忘れることはできない。大子町の滝川(久慈川の支流)にあり、日本三名瀑としても有名である。秋は紅葉と滝が美しく、冬は氷瀑することでも知られる。昔、西行は「この滝は四季に一度ずつ見に来ないと真の風趣は味わえない」といったほどで、大変美しい景勝地である。3回来たことがあるがその時の風景も大変美しかった。今回春風景は見られなかったが、次回ゆっくり訪問したい。

【筆者について】

坂本 貴啓(さかもと たかあき)

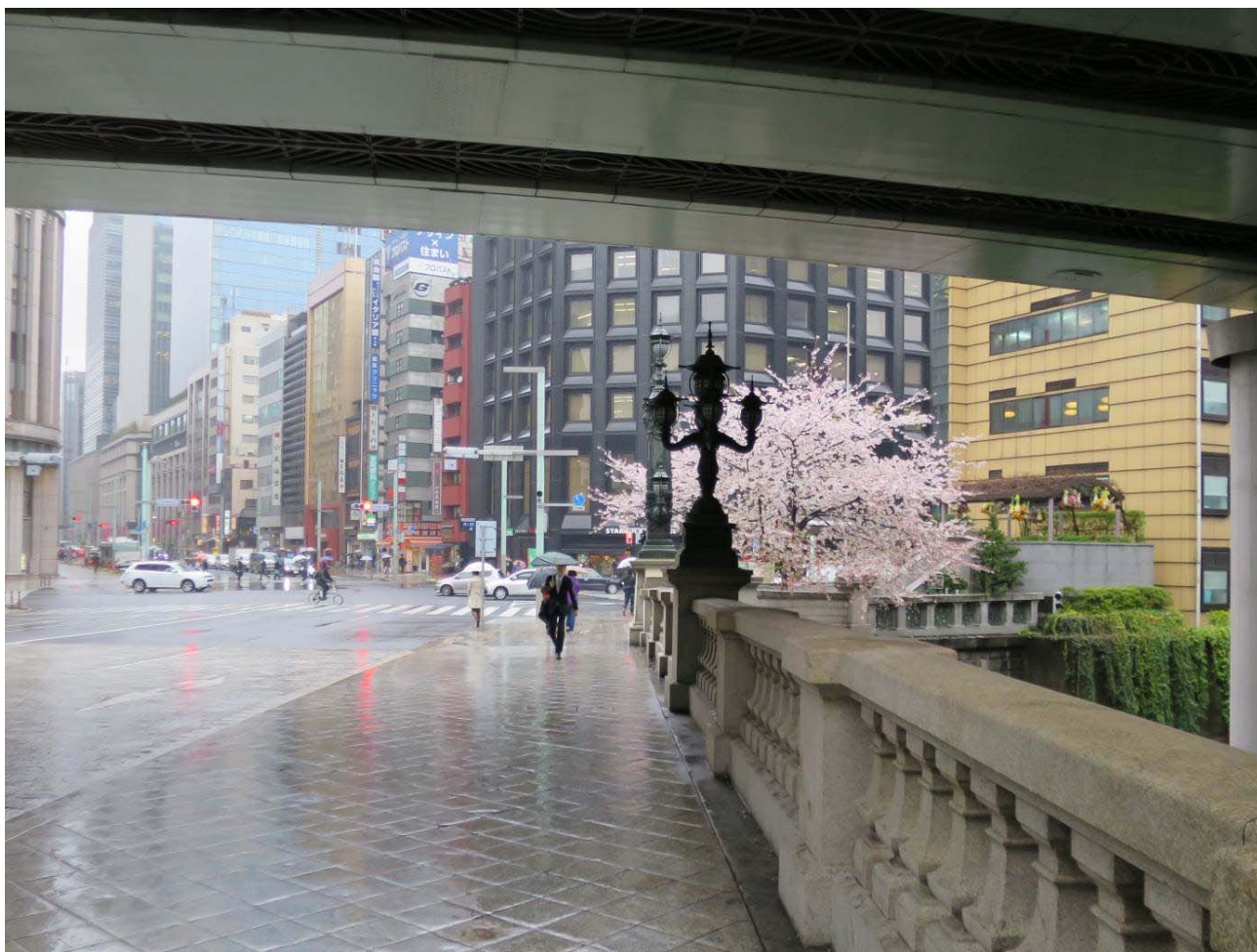


1987年福岡県生まれ。北九州市で育ち、高校生になってから下校途中の遠賀川へ寄り道をするようになり、川に興味を持ち始め、川に青春を捧げる。高校時代にはYNHC(青少年博物学会)、大学時代ではJOC(Joint of College)を設立して川活動に参加する。自称『川系男子』。いつか川系男子や川ガールが流行語になることを夢めている。筑波大学大学院 システム情報工学研究科 博士後期課程 構造エネルギー工学専攻在学中。白川直樹研究室『川と人』ゼミ所属。研究テーマは『河川市民団体における活動量の定量的分析』と題し、河川市民団体の活動がどの程度河川環境改善の潜在力を持っているかについて研究中。最近のお気に入りにはプールで泳ぎの練習をすること。

水辺からのメッセージ No.60

岡村幸二 (JRRN 会員)

桜に浮かぶ麒麟： 満開のサクラとともに雨にかすむ日本橋界わい



撮影：2014 年 4 月（東京都・中央区日本橋）

◆桜を際立たせるシルエット

重厚な石橋でつくられた現在の日本橋は 2011 年に 100 周年を迎えました。橋面の舗装や高欄は見違えるように洗浄され、映画“麒麟の翼”に登場した街灯モニュメントは、橋詰桜を背景に輪郭がくっきりと浮かび上がります。

◆国重要文化財の価値の重み

桜は植え替えても 30 年で立派に見えるものです。橋の上に架かる首都高速道路は 50 年たち、その存在を巡り再構築の議論が起こっています。時代を超えて生きる文化財は、前より古くなるどころか存在感価値はさらに高まることでしょう。

■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。(JRRN 事務局)

【JRRN 会員からの提供情報】

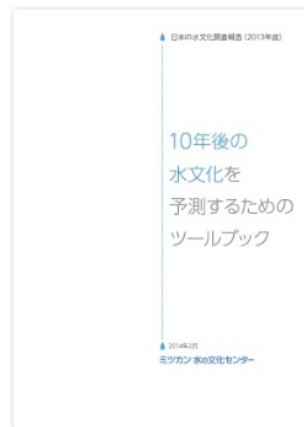
■日本の水文化調査報告「10 年後の水文化を予測するためのツールブック」公開のご案内

ミツカン水の文化センターより、2013 年度日本の水文化調査報告「10 年後の水文化を予測するためのツールブック」が公開されました。

本報告書の編集・執筆チーム一員でもある JRRN 会員・前川太一郎様よりメッセージを頂戴しています。

<前川さんメッセージ>

飲み水がどこから来て、使い終わるとどこへ行くのか、正確に説明できる大人は少ないのではないのでしょうか。昔に比べて現在は、水にまつわるシステムが高度化したことで、「水」と「人」の距離が離れてしまったと感じます。そこで「見える水」と「見えない（見えにくい）水」、「物理的な距離」と「心理的な距離」を軸として、このツールブックで扱うべきテーマを考えました。すでに始まっている人口減は、国や行政の税収に少なからぬ影響を与えるでしょうし、上下水道をはじめとする社会インフラを支えてきた担い手も減少するはずです。そんななか「何がおもしろいのか」「注目すべき点は何か」を考えることで「次代の文化の芽」を発見する試みを企てました。まだまだ不十分ですが、1 人でも多くの人たちと一緒に「健全な水文化の継承」を考えるきっかけになればと願っています。



◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/1588.html>

【JRRN 会員からの提供情報】

■『柳川堀割物語』 広松伝さん講演動画（2002 年 2 月・新潟）のご紹介

「矢部川をつなぐ会」より、住民参加による柳川堀割の再生を呼び掛けた水の会（柳川市）の初代会長・広松伝さんによる新潟で行われた最終講演（2002 年 2 月 17 日）の記録動画（放映時間：約 58 分）をご案内頂きました。

行政と市民が力を合わせて地元の川の再生を進めていく中での苦労や教訓が濃縮されている貴重な講演録です。



◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/1575.html>

【JRRN 会員からの提供情報】

■入間川・越辺川標識アユ放流作業（2014.5.6）

NPO 法人荒川流域ネットワークより標識アユ放流行事のご案内を頂きました。

○日時：
2014 年 5 月 6 日（火）
○場所：
荒川流域 入間川・越辺川
○主催：
NPO 法人荒川流域ネットワーク



◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/1537.html>

【海外からの提供情報】

■「RRC（英国河川再生センター）の最新会報（Bulletin）」ご紹介

RRC（英国河川再生センター）の最新会報（2014 年 4 月号）を RRC 事務局より送付頂きました。

本号では、河川再生現地研修報告、今年から創設された英国河川賞の最終選考 4 河川の紹介、また Nene 川におけるハビタット造成に関わる河川再生事例の話題などが登場しています。

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/1571.html>



(国内の河川・流域再生に関する主なイベント)

■ 遠くのかわを見る会

○日時：2014 年 5 月 3 日(土) - 4 日(日)

○主催：よこはまかわを考える会

○場所：静岡県磐田市 桶ヶ谷沼等

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/1582.html>

■ 入間川・越辺川標識アユ放流作業 (前頁参照)

○日時：2014 年 5 月 6 日(火) 9:00-

○主催：特定非営利活動法人荒川流域ネットワーク

○場所：菅間堰下流左岸 (9:00 集合)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/1537.html>

■ 地球温暖化時代の水・土砂災害適応策シンポジウム

○日時：2014 年 5 月 8 日(木) 13:00-17:30

○主催：九州大学 S-8 研究グループ等

○場所：沖縄県庁 4 階講堂

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1892.html>

■ アジアにおける水環境改善ビジネスに関するセミナー

○日時：2014 年 5 月 13 日(火) 13:30-17:00

○主催：環境省

○場所：全国町村議員会館 2 階 会議室

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1886.html>

■ 第 14 回北海道淡水魚保護フォーラム

○日時：2014 年 5 月 24 日(日) 14:00-18:00

○主催：北海道淡水魚保護ネットワーク・美幌博物館

○場所：しゃきっとプラザ 1F (美幌町役場となり)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1897.html>

■ 第十三回「琵琶湖外来魚駆除の日」

○日時：2014 年 5 月 25 日(日) 10:00-16:00

○主催：琵琶湖を戻す会

○場所：草津市烏丸半島多目的広場

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1894.html>

■ 2014 年度河川技術に関するシンポジウム

○日時：2014 年 6 月 5 日(木) ~6 日(金)

○主催：土木学会水工学委員会河川部会

○場所：東京大学農学部 弥生講堂(東京)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1831.html>

■ 「大槌学の地平から考える復興」シンポジウム

○日時：2014 年 6 月 14 日(日) 13:30 - 16:45

○主催：シンポジウム実行委員会

○場所：大槌町中央公民館 (岩手県上閉伊郡大槌町)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1890.html>

(海外の河川・流域再生に関する主なイベント)

- 2014.5.7-8(ロンドン/英国) 15th RRC Annual Network Conferences
- 2014.6.23-27(トロンハイム/ノルウェー) EcoHydraulics 2014
- 2014.6.25-27(ブリスベン/豪州) 5th Int. Symposium on Hydraulic Structures
- 2014.7.21-25(マナウス/ブラジル) 2nd Int. Conference on the Status and Future of the World's Large Rivers
- 2014.9.2-5(カタローニャ/スペイン) Cong. on Industrial and Agricultural Canals
- 2014.9.15-19(キャンベラ/豪州) 17th International Riverssymposium
- 2014.9.21-26(リスボン/ポルトガル) IWA World Water Congress & Exhibition
- 2014.9.21-24(ハノイ/ベトナム) 19th IAHR-APD 2014 Congress
- 2014.9.28-10.2 (ハンブルク/ドイツ) 11th Int. Conference on Hydrosience & Engineering
- 2014.10.27-29 (ウィーン/オーストリア) European River Restoration Conf. 2014
- 2015.4.12-17(Daegu/韓国) 7th World Water Forum
- 2015.6.28-7.3(ハーグ/オランダ) 36th IAHR World Congress

※詳しくは ARRN ウェブサイト内の国際会議ページをご参照下さい。→<http://www.a-rr.net/news/conference/>

書籍等の紹介 Publications

■ 東京 2020 計画地図 (2014.2 発刊)

- ・編著：東京都市計画研究会
- ・出版社：かんき出版



JRRN 代表理事・土屋信行がメンバーに属する「東京都市計画研究会」編集の書籍です。「銀座に川がよみがえる」「川・運河を観光船が走りまわる」など、2020 年の東京の川や水辺に関わる話題も豊富に登場しております。

■ 環境の学習と観測にもとづいたグローブプログラムの理論と実践 (2014.3 発刊)

- ・著者：山下脩二・樋口利彦・吉富友恭
- ・出版社：古今書院



JRRN 会員・吉富友恭先生共著の書籍です。日本が取り組んできた GLOBE プログラムの 18 年間の成果を中心に多くの事例が紹介されています。河川をフィールドにした環境観測の方法や具体的な実践事例も登場しています。

■ JRRN の登録資格（団体・個人）

JRRN への登録は、団体・個人を問わず無料です。
市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、
所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご
参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

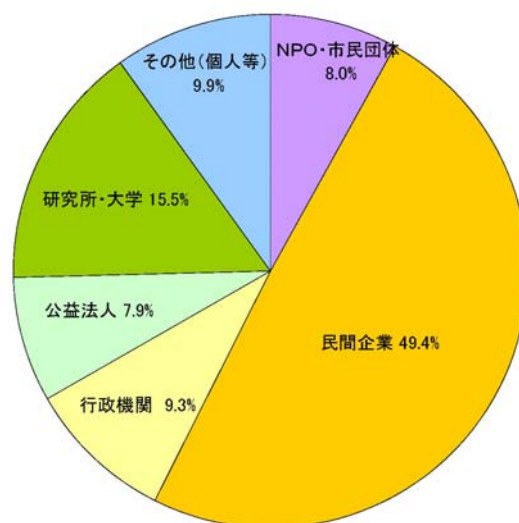
会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」を
ご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した
「JRRN ニュースメール」が週 1 回メール配信され
ます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が
入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加
することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集
の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベ
ント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川
再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援
を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2014 年 4 月 30 日時点の個人会員構成
(個人会員数：652 名、団体会員数：52 団体)

JRRN 会員特典一覧表(団体会員・個人会員)

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局



〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号 新川中央ビル 7 階

公益財団法人リバーフロント研究所 内

Tel:03-6228-3862 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net

URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>

JRRN 事務局は、「アジアにおける河川再生のためのネットワーク構築と活用に関する研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

